

2011年7月17日

## 「空の鳥を見なさい」 マタイ1：26～27

I 「空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養ってくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか」：26。 1. 鳥の命が支えられる方法と人間の場合は違いがある。鳥の場合には、食物はちゃんと用意されている。これに対し、私たち人間の場合には一定の手順が伴う。人はまず穀物の種を蒔く。やがてその種が成長して、収穫を刈り取る。それからそれを集めて倉に入れ、必要な時まで取っておく。これが人間の命が支えられる方法。人間の墮落後、神が人間に命じられた方法→「あなたは、顔に汗を流して糧を得」（創3：19）。種蒔き時と収穫時は、造り主なる神によって決定されていた。それゆえ、種蒔き、刈り入れ、倉への取り入れのわざは、人間にとり正当なわざである。「心配するな」：25という御言葉は、ただ座り込んで、朝毎に奇蹟的にパンがやって来るのを期待すべきだという意味ではない。神が命じられた種蒔き、必要な仕事はする必要がある。しかし、蒔いたら（自分の分を果たしたら）、その種を収穫にまで増やすことのできる唯一のお方である神に信頼すべきである。主は鳥に注意を促される。神は、鳥の為に、その食物を自然の中に用意されている。主は、これを良く見なさいと語られる。自分で「種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることも」しない鳥さえ、神により食物を備えられている。神は鳥たちの面倒を見、世話をしておられる。 2. 神はこの世界に存在する万物の創造主、創始者、保持者。この偉大なお方が、私たちを心から愛して下さる天の父である。私たちの父なる神が空の鳥を、これほどまでに世話をしておられるのであれば、当然私たちをもっと十分に世話を下さるはず。この大空、自然、動物、魚、空の鳥、野の花、そして私たち人間は、偶然の産物ではなく、神が意味と御目的をもって大切に造られた。今も神は、愛して、母の胎内で赤ちゃんを創造されている。偉大な神が愛と知恵と力をもって造られ、神こそ現存する万物の保持者、維持者である。ここで私たちは、この偉大な神が、イエス・キリストにあって私たちを心から愛しておられる天の父であり、私たちは父なる神に愛されている子供である事実を深く覚えたい。 3. 「あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか」：26。聖書にこそ、人間の真の尊厳性、尊さが教えられている。人間は「われわれ（父、子、聖霊なる三位一体の神）のかたち（御性質）として、われわれ（三位一体の神）に似せて」造られた（創1：26、27）。しかし、私たち人間は罪を犯し罪人となり、神のかたち（御性質）からほど遠くなってしまった。そんな私たちを神は見捨てず、愛し、主を信じる者を神の子とし、愛しこう語りかけて下さる→「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしは、あなたを愛している」（イザ43：4）。何ともったいないお言葉！しかし本当に私たちの存在を喜び愛しておられる。神は愛をもって私たちの世話をしておられる。

II 「あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか」：27。命に関することはことごとく神の決定による。私たちの時間は、神の御手の中にある。主は語り掛けられる。「心配したからといって、自分のいのちを延ばせますか」。命は神の賜物である。私たちの命の始まりを与えられた神は、命の終わりを決定される。神が、私たちの命を支えて下さるのであり、私たちは神の御手の中にある。私たちは、自分の命を始めることも、維持することも、終

わらせることもできない。それは全面的に神の御手の中にある。もしこの最も大事な命の事が神の支配のもとにあるなら、それより小さなことはすべて、神の御手にお任せして良いはず。何年生きたかより、どのように生きたかが大切。私たちの命はいつまで続くかわからない。神のみが御存知。だから、残りの人生、一日一日を神に与えられ生かされている時間として主を信じ主と共に大切に生きたい。一日一日、神から与えられた自分の分（体を休めるべき時と仕事をするべき時がある）、なすべき事を識別し、主に頼りつ果たせるように祈りたい。種を蒔き、耕すことはできる。しかし、もし神が太陽と雨を与えて下さらなければ、収穫を得ることはできない。これらすべてのことの背後におられる究極的存在は神。私たち人間には果たすべき役割と仕方がある。しかし、命を与え成長させて下さるのは神である。これこそ私たちがいつも心に留めておくべき事。

Ⅲ 「野のゆりがどうして育つのか、よくわきまえなさい…栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草（当時のパンを焼く時の燃料）さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたによくしてくださらないわけがありませんか」：28～30。神が造られた花（その形、感触、香り、色合い）には、栄華を極めたソロモンも、またどんな人間が工夫を凝らしても決して真にまねることのできない本質的な特性、美しさがある。短い命の草花、一度も目に触れることもない小さな花（高山植物）にもかかわらず、神は育て装って下さっている。それが事実。そうならば、まして、神が命を与え、大切に造り救われ神の子供とされた私たちに、良くしてくださらないわけがありませんか。神は、私たちを愛し、いつも見守り、支えて下さる。

祈り：天と地、空の鳥、野の花、そして私たちを造って下さったあなたを心からほめたたえます。罪人の私たちを愛して主が身代わりに死なれ、主を信じる私たちを救って下さり私たちも新しく造り変えて下さることを感謝します。残りの人生の命の長さはあなたのみが御存知です。一日一日を大切にし、あなたを信頼して歩ませてください。